

環境経営活動レポート

2023年4月～2024年3月



2024年11月28日発行

 富士自動車興業株式会社

目次

	頁
1. 組織の概要・対象範囲	2
2. 実施体制	3
3. 環境経営方針	4
4. 環境経営目標	5
5. 環境経営計画	6
6. 環境経営目標の実績	7~9
7. 環境経営計画の取組結果とその評価	10~15
8. 環境関連法規等への違反、訴訟の有無 及び、計画の取組結果の評価	16~17
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	18
10. 2024年度環境経営目標	19
11. 2024年度環境経営計画	20

1. 組織の概要

1) 事業者名及び代表者名

◆富士自動車興業株式会社

代表者 取締役社長 高久 斎

2) 所在地

◆神奈川県相模原市南区大野台4丁目3番地3号

3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

◆環境管理責任者 飯塚 肇 / 2023年7月~木内 孝 変更

◆担当者連絡先 開 麻代

電話 042-759-6711

FAX 042-759-6720

4) 事業の内容

◆自動車・建設機械部品の機械加工、組立

5) 事業の規模

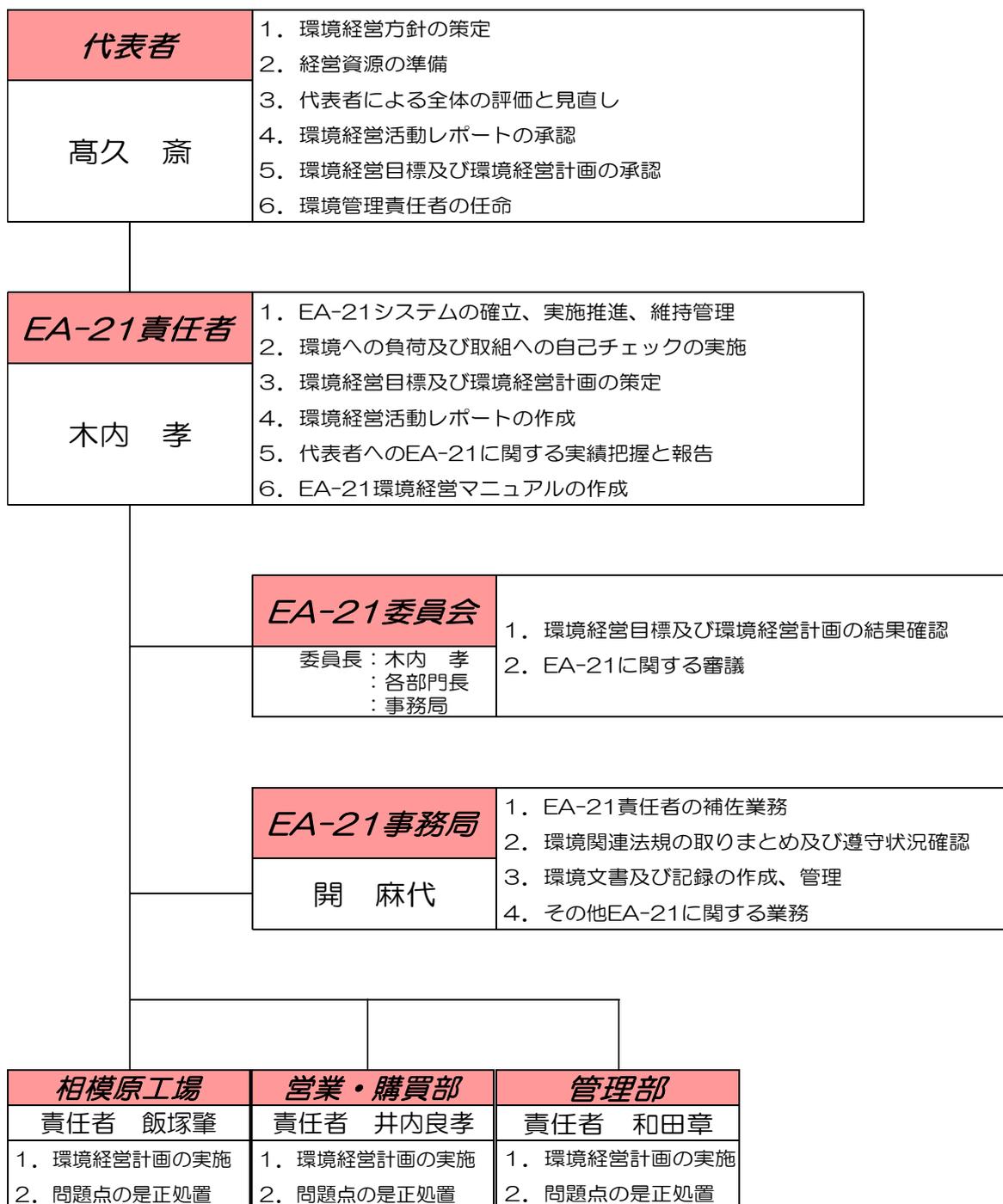
活動規模	2021年度	2022年度	2023年度
売上額(億)	24.0	27.7	27.9
従業員(人)	109	109	114
床面積(m ²)	5,743	5,743	5,743

6) 対象範囲

◆全組織・全活動

2. 実施体制

富士自動車興業株式会社 環境管理実施体制



2023年7月1日 エコアクション事務局

3. 環境経営方針

富士自動車興業(株)は自動車産業にたずさわるものとして、地球環境の保全と、限りある資源の有効活用を計りながら無駄の排除に努め、且つ関係法令を遵守する事によって事業活動の発展を行う事とし、これによって地域社会への貢献に努めるべく下記の事項を実行する。

【記】

1. 生産活動を含むすべての業務において省資源、リサイクル、産業廃棄物削減、省エネルギー、節水に努める。
2. 有害物質の削減に努める。
3. 排水、廃棄等による汚染の改善に努める。
4. 生産活動での使用物品や事業用品等のグリーン購入に努め、循環型社会の実現に貢献する。
5. 環境に配慮したムダの少ない設計や製造に努める。
6. 全ての業務に係る環境管理システムを構築し、その継続的改善を図る。
7. 本方針を全従業員並びに協力企業に周知するとともに、本活動を示した環境活動レポートを作成し、社外に公表する。

2011年10月1日

富士自動車興業株式会社

取締役社長 高久 斎

4. 2023年度 環境経営目標

2018年～2020年の平均を基準とし、2021年度からの3年間の中期計画として年で3%の削減とした。

No.	管理項目			単位	2018-2020年度 3年平均	2021年度目標 3年平均-1%	2022年度目標 3年平均-2%	2023年度目標 3年平均-3%
1	二酸化炭素 排出量			kg-CO ₂ /億円	31,648	31,332	31,015	30,699
2	廃棄物等 総排出量	排出量 (m ³)	① 汚泥	m ³ /億円	0.197	0.195	0.193	0.191
			② 混合廃棄物	m ³ /億円	0.994	0.984	0.974	0.964
			③ 廃プラスチック	m ³ /億円	0.492	0.487	0.482	0.477
			④ 木くず	m ³ /億円	3.012	2.981	2.951	2.921
			⑤ 有機溶剤	m ³ /億円	0.0022	0.0021	0.0021	0.0021
			⑥ 廃油	m ³ /億円	2.254	2.232	2.209	2.187
			⑦ 最終処分量 (可燃ゴミ)	m ³ /億円	1.040	1.029	1.019	1.008
		排出量 (t)	⑧ 鉄くず (ヤマナカ)	t/億円	28,579	28,294	28,008	27,722
3	水使用量	使用量 (m ³)	公共用水域	m ³ /億円	55,219	54,667	54,115	53,563
4	化学物質 使用量	使用量 (kg)	トルエン キシレン 他	kg/百万 円	0.691	現状維持	現状維持	現状維持
5	環境配慮製品 ・サービスの提供	件数	素材の歩留り向上 等の改善	件	0件	2件	2件	2件

※原単位は売上1億円当たりとし、その排出量。

※購入電力の二酸化炭素排出係数は0.457[kg-CO₂/kWh]

※化学物質使用量に関しては顧客の指示による使用の為、目標は【現状維持】としています。

5.環境経営計画

【活動の課題】

2022年比/売上1億円

No	項目	目標	手段	活動
1)	CO2排出量削減	3%削減 電力使用量/月 149,000kwh ⇒140,550kwh	・量産効率改善 ・省エネ対策	・生産性向上 ・不良品低減 ・設備省力化、節電
2)	産業廃棄物削減	10%削減 ①汚泥 ②廃油（水使用量） ③一般ごみ ④他	・3R推進 Reduce（発生抑制） Reuse（再使用） Recycle（再資源化） ・品質向上	・管理方法向上 ・荷姿改善 ・品質不良対策と再発防止

【活動計画と日程】

No	項目	内容	担当	2023年												2024年				2025年	2026年
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4~12月	1~12月	1~12月			
1)	全体計画	審査	審査員																☆ (23年度分)		
		中間審査 1回/2年 更新審査 1回/2年	(事務局)																	☆ (24年度分)	
	①組織拡大（新工場）	事務局																準備期間	活動開始	活動、評価、見直し	
	②課題と目標指示	事務局	→																		
	③内部監査	監査員								▽											
	④活動状況確認と計画の見直し	責任者									▽										
	⑤活動の振り返りとまとめ	事務局															→				
2)	各部計画	①法令順守	全社																		
		②省エネ	各部署	マニュアルによる日常活動																	
	課題取組活動 計画																	部署毎計画			
	実施																				
		結果と見直し																			
	③産業廃棄物	各部署	マニュアルによる日常活動																		
	計画		→															部署毎計画			
実施																					
	結果と見直し																				
④水道使用量削減	全社	マニュアルによる日常活動																			
⑤ウリーン購入																					
⑥地域コミュニケーション																					
⑦教育																					
3)	活動の評価	①活動結果まとめと課題の抽出	全社																		

※活動の課題

2023年度までの中期計画目標達成のための活動課題と修正目標を示します。

※各部署は上記活動の課題と計画から部署毎の活動内容を策定し、日程計画により活動。

6. 環境経営目標の実績

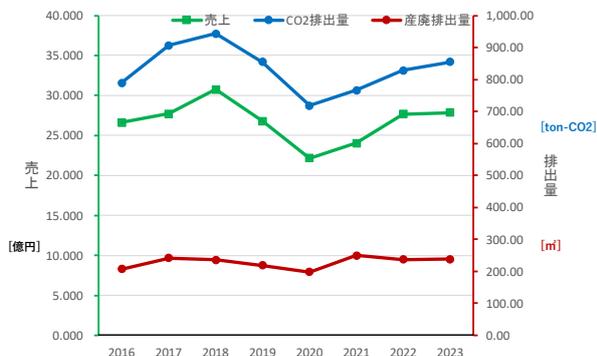
No.	管理項目	単位	2023年度 目標	実績	$\frac{\text{実績}}{\text{目標}} \times 100$	評価		
1	二酸化炭素排出量	Kg-CO ₂ /億円	30,699	30,676	100	O		
2	廃棄物等 総排出量	排出量 (m ³)	① 汚泥	m ³ /億円	0.191	0.322	169	X
			② 混合廃棄物	m ³ /億円	0.964	0.483	50	O
			③ 廃プラスチック	m ³ /億円	0.477	0.980	205	X
			④ 木くず	m ³ /億円	2,921	2,779	95	O
			⑤ 有機溶剤	m ³ /億円	0.0021	0.0039	185	X
			⑥ 廃油	m ³ /億円	2,187	2,057	94	O
			⑦ 最終処分量 (可燃ゴミ)	m ³ /億円	1,008	1,237	123	X
			排出量 (t)	⑧ 鉄くず (ヤマナカ)	t / 億円	27,722	30,665	111
3	水使用量	使用量 (m ³)	公共用水域	m ³ /億円	53,563	57,233	107	X
4	化学物質使用量	使用量 (kg)	シリコン・キリン	kg/百万円	現状維持	現状維持	—	O

2023年度の二酸化炭素総排出量； 855,226 [kg]

【売上-CO2・産廃排出量の推移】

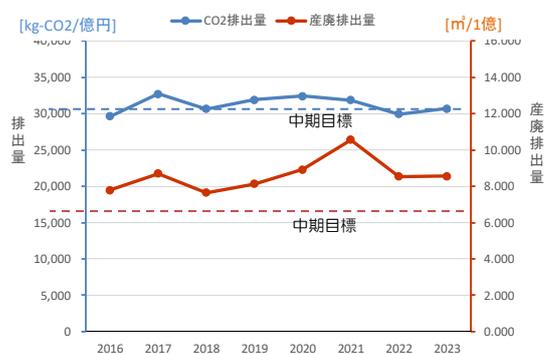
売上とCO₂・産廃排出量

★売上とCO₂排出量・産廃排出量



売上 1 億円あたりの排出量

★売上 1 億円あたりのCO₂排出量と産廃排出量

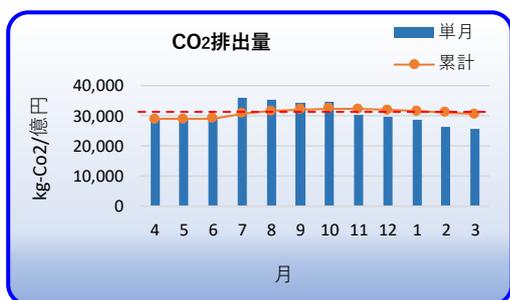


7 環境負荷実績のまとめ

【項目別排出量 まとめ】

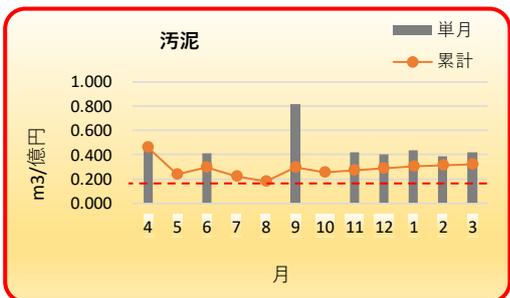
2023年度 ・CO₂ 排出量
 ・廃棄物等 総排出量
 (売上 1 億円あたりの排出量)

--- 目標値
 [達成] 達成
 [未達] 未達



目標の 100%

2022年度に比、電気使用量が増えた結果CO₂出量に影響した。MA3 スリーブ生産 VOL が増え且つ工法上、不良発生率が高く CO₂ 排出量は目標値レベル止まりとなった。工法改善後は CO₂ 抑制に貢献できる。



目標の169%

2022年度と同等。月別としては9月が多いが、7月、8月を含めた3ヶ月分の処理。内容分析により 2024 年度以降の適正な目標値見直し実施する。



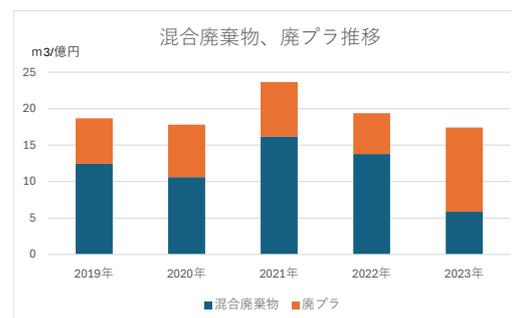
目標の 50%

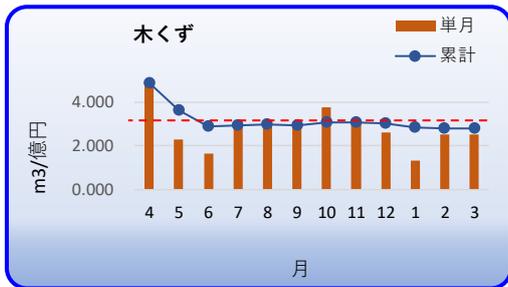
目標の50%と分別が進んだため大幅達成。分別が適正に実施されている。2024 年度以降の目標見直し実施する。

混合廃棄物と同様分別（混合廃棄物⇒廃プラに分別）が進んだため大幅未達となったが年間で混合廃棄物+廃プラ総量は削減傾向となっている。2024 年度以降の目標値見直し。



目標の 205%

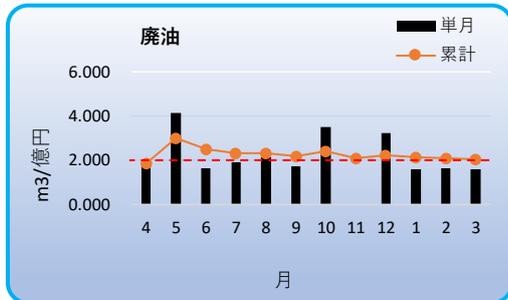




目標の 95%

木くずの大半は海外調達品の梱包用であり生産数量が減った影響により排出量は下がった。売上は別部品で売上をカバーしており排出量は目標をクリアした。

梱包材のコスト影響が少ない範囲での材質変更変更は今後の課題。



目標の 94%

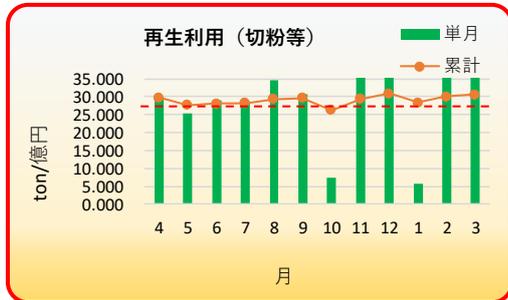
クーラント、油圧ユニット油交換計画を実施。今後は別工法等によるクーラントのロングライフ化を検討し廃油量の更なる削減を計る。



目標の 123%

分別等の活動は定着しており、排出量は削減できているが、レイアウト変更等によるスポットでの増加がはっせいする。

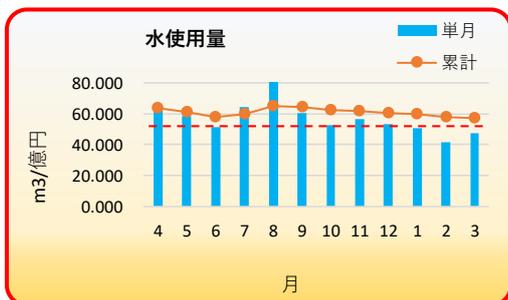
毎月の更なる排出量抑制を進め、目標達成を図る。



目標の 111%

排出要因は不良品が多くみられ、品質不良発生源対策が必要。

品質不良削減は材料、加工の電力、その他の削減にも波及効果が期待できる。

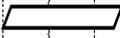


目標の 107%

8月の増加は新規部品生産のための設備移設によるものであるが、通年で使用量が多くなっており、更なる切削油等の寿命延長、ワーク付着等の持ち出し削減必要である。

7. 2023年度環境経営計画・実施状況・評価表

【各部署計画と実績 まとめ表】

No	部署	取組項目	取組内容	管理項目	目標	2023年						2024年					
						4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1	製造	消費電力削減	・ 不要な照明、機械電源のOFF	実施率	100%	→											
1	製造 保全	コンプレッサー 消費電力削減	・ エアー漏れの撲滅 定期点検と不具合箇所修復	実施率	2回/年							▲	△ 修理依頼のみ対応				
2 3	保全	廃油量排出削減	・ 切削油の管理による寿命延長 濃度管理&漏れ確認	実施率	定期巡回	→											
2	品管	不良品の削減	・ 不良品低減活動による廃棄物削減 朝一巡回	不良率	0.15% 以下												0.32%
1	技術	新規設備の 省電力化	・ 計画がある新設設備について、仕様 検討段階より省電力化仕様	仕様反映	100%	ナックルアーム 						→ 					
						リンクアーム 						→ 					
2	管理	廃棄物削減	・ 作業着のリサイクル	回収枚数	44枚												40枚回収
2	営業 購買	廃棄物削減	・ 納入荷姿（段ボール削減）	件数	1件/年												0件

No: 1:省エネ 2:廃棄物の削減 3:排水量削減

【評価コメント】

2023 年度総括

- ・ 不良品削減による廃棄物削減目指して活動を実施しているが、品質目標 0.15%に対して、実績 0.32%ととなり重量物製品の不良が発生し、鉄くず（再生利用廃棄物）の増加に影響を与えた。昨年よりも品質不良は増加傾向に有る（2022 年績：0.165%）段取替え時の初品にて確実な品質確保が課題。
- ・ 省エネに関しては電気、エアー共に日常的に点検を実施されているが生産設備に関しては高齢機が多いため、新設機手配時には省エネを考慮した機械の仕様にて電力抑制する。
- ・ 廃油量排出削減は日常対応の他、クーラントに関して、処理設備、添加剤等によるロングライフ化を検討する。

主な環境経営計画の取組結果①

① 組織拡大による エコアクション準備開始 2024年12月～

新工場 建屋外観 2024年1月



② 品質不良抑制による CO2 排出量削減

SLEEVE ASM CLUTCH 組付(圧入)不良発生を抑え CO2排出量削減した。



不良品は再使用不可
⇒廃棄



対策：工法変更

常温圧入⇒焼き嵌め 変更

結果：不良発生個数 “0”

CO2 排出量削減効果

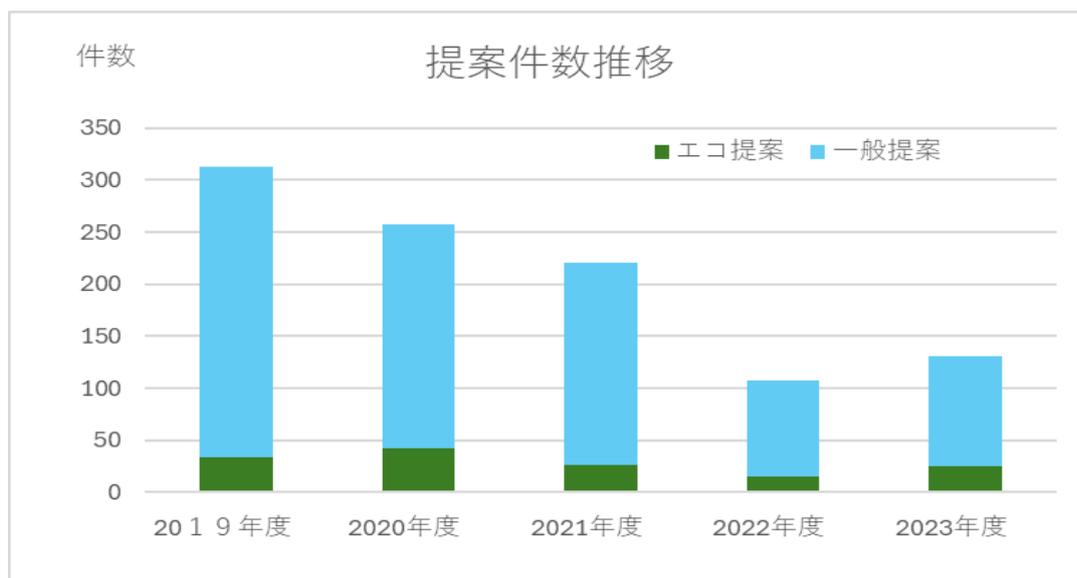
不良発生個数：1,176 個/6ヶ月 損失金額 6,068,160 円

換算 1,863 kg/6ヶ月 ⇒ 年間換算 3,726 kg/年

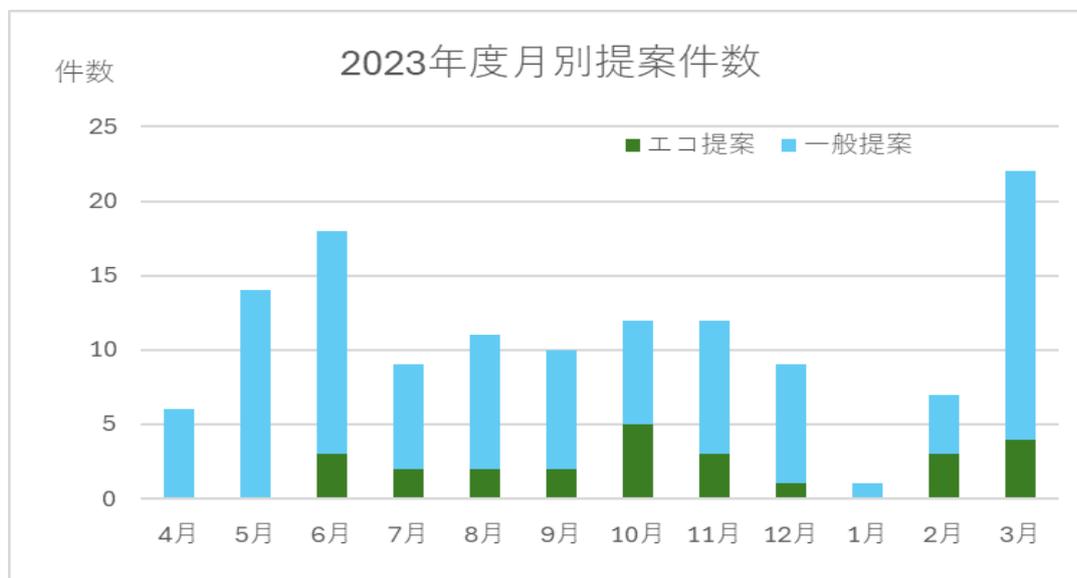
主な環境経営計画の取組結果②

【エコ提案活動】

改善提案において環境に関するものには【エコアクション賞】としてプラスの報奨金を設定している。



提案件数が低下傾向のため啓蒙活動を継続実施する。



日頃の改善視点向上に結び付く他社事例発信等を実施しレベルアップを図る。

【エコ提案事例 1】

受付番号 57 改善提案 提案日 2023年 9月 25日

提案名 ドリブ部品管理表の改善 提案者所属 2係 名前 326 門倉 みゆき

提案の種類 1. 安全 2. 品質 3. 生産性 4. 経費節減 5. 5S 6. その他
(いずれかに○)

実施状況 1. 実施済み 2. 実施予定 月 日 3. 実施未定 (いずれかに○)

改善内容 (従来の方法と対比して記入の事、改善による効果(プラス面とマイナス面)改善に苦勞した所等を記入の事。裏面を使用しても良い。)

<改善前>
ドリブ出荷に部品管理表という名目で出荷用の箱1つづつに表示を貼っていた
表示は1度きりの使い捨てだった為毎回使用する品番の表示を用意する必要があった

<改善後>
部品管理表をラミネートし使いまわせるようにした。

効果
表示をカットし用意する時間の短縮ができ、無駄な紙の削減ができた

改善に要したMH _____ 改善に要した経費 _____ 円

所属長意見 (所属長は適当と思われる" 級"とその理由を記入して下さい。)
シートが破ると部品を用意する時間、箱の使用ロス、にも対応できる

審査委員意見
エコでいい。今の段階で紙の使用量と、ラミネート使用品の数、早く在庫、ラミネート品の在庫

判定 7 報 判定日 23年 9月 5日

部品管理表をラミネート化して繰り返し使用（変更前：一度の使い捨て）。

【エコ提案事例 2】

受付番号 100 改善提案 提案日 2023年12月20日

提案名 φ10ドリル再利用 提案者所属 保全課 氏名 山口 陽祐

提案の種類 1. 安全 2. 品質 3. 生産性 4. 経費節減 5. 5S 6. その他

実施状況 1. 実施済み 2. 実施予定 月 日 3. 実施未定

改善内容 従来の方法と対比して記入の事、改善による効果(プラス面とマイナス面)改善に苦勞した所等を記入の事。裏面を使用しても良い。

<改善前>

B棟にてφ10のドリルをダンパーのバランスとり用に使用しているが、寿命が短い(長くないと削れない)。新品刃具長104mm→90mmまでしかB棟では使えない。研磨回数1回3mmとしても4回程で終了。毎日使用している&限界早いのもったいなくとっておいた。

<改善後>



内製化によりクラウンピストンが社内加工になり、φ10の油穴が1個につき8か所もあるため、加工終了まで大体4~6本程使用(研磨)している。新品ではなく、刃具長90mmのB棟使用済のドリルでも刃具長74mmまでは使用できる。1回3mm研磨でも5回研磨できる。新品ドリルをクラウンピストン用に購入(使用)なくてもB棟での使用品のドリルで十分代用できる。社内研磨は単価約100円。φ10ドリル新品は1個1895円。

効果
 新品1895円-研磨100円=1795円 初期投資だけでも1795円*4~6本(予備)=7180~10770円分抑制。
 新品に比べて早く寿命が尽きるものの、B棟にて限界を迎えるドリルが適度に来る&クラウンピストン月1回まとめてなので、クラウンピストン用にドリル購入の必要なくできる。

改善に要したMH 改善に要した経費 エコアクション賞 HAS

所属長意見 (所属長は適当と思われる) 級とその理由を記入して下さい。 級

審査委員意見 unzoda. Full/a 再利用 zoda. Full/a 他にも 予p 改と、再利用をどんどん進めたい。

判定 6 級 判定日 24年 1月23日

ドリル全長が短く使えなくなったドリルを新規追加された製品加工用に流用しドリルライフサイクルの延長を図った。

主な環境経営計画の取組内容

【緑のカーテン】 夏から秋にかけては緑のカーテンで日差しを防ぎます



【太陽光パネル】

駐車場屋根の太陽光パネル 42 kW

発電量 (Kwh)



【マイお箸】

昼食時は各自でお箸を用意 (割りばしの廃止)

【廃棄物の分別】

分別容器と要点の明示



8. 環境関連法規制の遵守状況の確認

遵守状況の確認

確認日；2023年5月11日

環境関連法規とりまとめ表

遵守評価確認日	承認	作成
2024年5月13日	木内	開

法的要求事項等の名称	規制内容	対象施設又は業務	対応調査・届出・認可報告・資格取得・改善	遵守状況	担当部署
騒音規制法 振動規制法	昼間65db、朝夕60db、夜間50db	・7.5kW以上のコンプレッサ ・30kW以上の練りロール	・コンプレッサの故障がない限り騒音は発生しない コンプレッサの異常の有無を確認	異常なし	保全課
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・産業廃棄物 燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃プラスチック等 ・特別管理産業廃棄物 産廃のうち爆発性、毒性、感染性等の廃棄物 ・一般廃棄物 ・産業廃棄物以外の廃棄物	・産廃業者が引取まで一時保管に明示して保管する	・産廃業者との委託契約及び管理 ・マニフェスト管理 ・特別管理産業廃棄物 ・管理責任者の資格取得	遵守	総務課
P.C.B.特措法	・事業者の責任において保管、処理 ・毎年6月末までに保管状況の報告	・トランス ・処理ゴミ	(処理済み) ・処理完了 上記報告	遵守	技術課
特定科学物質の環境への排出量の把握(PRTR法)	・第1種指定化学物質(515物質) ・第2種特定化学物質(134物質)	・キシレン	・経済産業大臣 相模原市長に使用量の届け出 1回/年 ・県条例により削減計画書提出	遵守	技術課
労働安全衛生法	・有機溶剤 ・粉じん	・塗装・接着剤塗布 ・溶接・ショットブラスト	・年2回環境測定	実施日 2023/9/25	技術課
神奈川県生活環境の保全等に関する条例	・騒音、振動等の公害を発生させる事業所		・届け出、表示	遵守	総務課
消防法	・第四類の貯蔵	・屋内貯蔵所	・届け出、貯蔵量確認	遵守	保全課
家電リサイクル法	・廃棄時の引取業者への引渡し料金支払い	・工場内	・処理依頼	遵守	総務課
フロン排出抑制法	・機器の点検(簡易点検と定期点検) ・整備・点検の記録と保存	・エアコン	・点検 ・整備・点検の記録と保管	遵守	技術課
自動車リサイクル法	・廃棄時の引取業者への引渡し料金支払い	・工場内	・処理依頼	遵守	総務課

最新版は環境省・事業所所在地の自治体ホームページ及び、関係機関に問い合わせるか訪問し確認する。

違反・訴訟の有無

環境関連法規への違反はありません。

なお関係当局よりの違反等の指摘も過去3年間ありませんでした。

環境経営計画の取組結果の評価(2023 年度)

2023年度、環境方針及び活動計画に基づいた活動結果に対する評価を以下にまとめました。

1) 二酸化炭素排出量

二酸化炭素排出量の96%を締める電力使用量については、目標値を満足できたが、2022年比では売り上げは同等ながら、二酸化炭素排出量は3%増加した。新規製品の量産立ち上げによる歩留まりの悪化による影響と考えられる。次年度以降、生産性の向上、ロスコスト削減により更なる削減を目指し活動を継続する。

2) 廃棄物総排出量

廃棄物については、汚泥に関しては大幅未達となった。定期清掃を計画的に実施しているがラインレイアウト変更時に清掃を実施しており排出量が多くなるが通年でも目標値未達となっており削減につながる対策が必要。混合廃棄物の分別が進み、混合廃棄物の排出量が減り廃プラは増加したが、総量では削減につながった。木くずは目標達を成したが、梱包仕様変更を行わないと根本の削減にはつながらない。

スクラップ(再生利用)、水使用量では目標の7~11%オーバーとなっており改善がみられなかった。品質不良抑制による削減に次年度以降つなげる。

製品立ち上げ・変更は常に行われるため過去のトラブルの再発防止を行い、新規製品立ち上げ無駄のない早期立ち上げができる体制を確保し廃棄物削減に繋げていく。

3) 総排水量

目標に対して107%と未達であった。クーラントのロングライフ化、持ち出し良の削減により水使用量を削減する

4) その他

根本的な発生源での削減につながる活動を展開し目標値達成する。

排出内容の調査分析し原因究明と対策を検討すると同時に生產品目の変更による工程に伴う時には適正な目標値の見直し等も考えていく必要がある。

2024年 11月 20日
富士自動車興業株式会社
環境管理責任者 木内 孝

9. 代表者による全体評価と見直し結果

2023年度については、コロナウィルスのV類への移行を機に日本経済全体が回復基調に転じた。このため当社最大の得意先である商用車メーカーも生産増となり、当社受注量、売上げも上昇し、前年度比増の実績を残す事が出来た。

このような状況下、環境経営目標実績については、多くの項目で達成する事が出来なかった。この要因としては新規受注、受注製品の設計変更に伴う設備の移動、新設等のため、入替時において廃棄物発生の影響が大きかった事によるものであると思われる。環境活動に関しては、継続的に活動に対して社員に周知されており、日々の活動も行われて「エコ提案」等も出されているが、新規取り組みが見られていない事も事実である。

今後は毎月の「安全衛生委員会」、社員自身による「パトロール」の機会や、朝礼等において積極的な意見が出る事を期待したい。

会社としても社内に留まる事無く、外部情報等を取り入れた活動も試行して行きたいと思う。

2024年11月26日

富士自動車興業株式会社
代表取締役社長 高橋 茂樹

10. 2024 年度環境経営目標

2024年度は中期計画の3ヶ年初年度であり、過去の3年を元に新規目標を設定した。

環境目標 (2024年~2026年)

57	管理項目		単位	2021-2023年度 3年平均	2024年度目標 3年平均-1%	2025年度目標 3年平均-2%	2026年度目標 3年平均-3%	
1	二酸化炭素 排出量		kg-CO ₂ /億円	27,675	27,398	27,121	26,844	
2	廃棄物等 総排出量	① 汚泥	m ³ /億円	0.328	0.325	0.322	0.319	
		② 混合廃棄物	m ³ /億円	0.483	0.478	0.473	0.468	
		③ 廃プラスチック	m ³ /億円	0.980	0.970	0.960	0.951	
		④ 木くず	m ³ /億円	3,348	3,315	3,281	3,248	
		⑤ 有機溶剤	m ³ /億円	0.0016	0.0016	0.0016	0.0015	
		⑥ 廃油	m ³ /億円	2,468	2,443	2,419	2,394	
		⑦ 最終処分量 (可燃J ₃)	m ³ /億円	1,214	1,201	1,189	1,177	
		排出量 (t)	⑧ 鉄くず (ヤマナカ)	t/億円	30,678	30,371	30,064	29,757
3	水使用量	使用量 (m ³)	公共用水域	m ³ /億円	56,687	56,120	55,553	54,986
4	化学物質 使用量	使用量 (kg)	トルエン キシレン 他	kg/百万 円	0,691	現状維持	現状維持	現状維持

※売上 1 億円当たりの排出量。
 ※購入電力の二酸化炭素排出係数は 0.457⇒0.408 kg-CO₂見直し。
 ※化学物質使用量に関しては顧客の指示による使用の為、目標は【現状維持】としています。
 ※2025 年以降厚木工場が本格稼働により新工程が追加され、環境管理値に影響有り。

